

宮城・夏の海岸シリーズ第二段。今度は大学生による素晴らしい地図が登場した。今年の東北は運営する気迫も熱かった。



東北大学大会 web ページの試走シーン

東北大学オリエンテーリング大会
2004年8月29日(日)
仙台市 荒浜海浜公園周辺砂防林

やらされていた「過去の大会

自分が現役生だった頃、東北大会といえば「地図がイカ」「テレインは激斜でやぶい」大会で有名でした。知り合いに大会参加を誘ってもそれを理由に全く相手にされなかったことも良くありました。

それ以上に問題だと感じていたのは(テレインの問題は仕方ないとしても)地図の品質が悪いという事が分かっているながら引継ぎ時に極めて限られた範囲での注意事項をマニュアル等に追加するのみ、という極めて消極的な対応ばかり行っていて、地図に対する知識を深めたり、自分たちの調査手法を根本から見直したり、といった作業を怠ってきたこと、地図に対するネガティブな評価を長きに亘って受け入れてきた点です。

この傾向は地図の作成に限らず、(このレポートを読んでいる東北大OBの方々には少々言いにくいことなのですが、)少なくとも自分が現役の頃に関わってきた大半の役員の関心事は、どのような大会を理想として、そのために何を必要とするのか、といったことではなく、「与えられた作業を如何に順調にこなすか」という点にあった気がします。何のために大会をやっているのか分からない、「やらされる」大会であったとも言えました。

自分たちの意思でやる大会へ

...そういう過去の東北大会の実情を良く知っている身としては、今回の大会はまるで別の大会のような印象さえありました。先ほどあらん限りの言葉でこき下ろした地図ですが、ここが一番いい意味で衝撃を受けました。

今回使用した地図は、かの入江崇氏が調査・作図した「荒浜貞山堀」の拡大リメイクですが、自分は当初、拡大部分の地図の完成度については余り期待していませんでした。ところが新規範囲の地図は詳細な部分にも注意が払われており、新規範囲の品質のほうがいいのでは、とさえ思えました。自分は大抵、地図の文句を(昨年の公認大会の時もそうであったように)現役に言ってしまうのですが、今回は文句をつけるどころが見つかりませんでした。

今回の地図は文句なしに東北大会史上最高の地図です。使用する範囲を早いうちから限定して、集中的に調査したこともいい方向に働いたのでしょう。たとえ余り広くなくても、大会後の練習会等での利用を考えるとその判断は正しいと思います。

ただ、あえて(文句ではなく)アドバイスをする所があるとすれば、コースのパープルの色が自分のような色弱(色盲)者には非常に読みづらい点です。プリンタ印刷の場合、コースのパープルの使い方には工夫が要るので、今後はその点を勉強していただきたいと思います。

そしてもう1つ、既存範囲の地図(荒浜深沼)が過去の地図の表現に囚われ過ぎて、初めてこのテレインを訪れた人にとって不利になる箇所が散在していたことです。この範囲を使ったM/WQクラスで、露骨な結果が出ていないか少し心配です。

イベント面も、そつなく練られており、「見せる」事を前面に出しながらも、かつての東北大会の売りの1つであった「アットホームさ」も良く出ていたと思います。この大会のために調査された全範囲を含めた2m弱の長さを誇る「荒浜」の発売や、大会Tシャツの作成など、遊び心が十分にあって、久しぶりに楽しい大会に参加させていただいた、と感謝しています。

ただ、「荒浜」に限って言えば、購入する人のタイプは「地図マニア」か「マップパー」と決まっており、そういう人たちはこういった「おいしい」物は値段が高くなってもしっかり買う人がほとんどなのでこういうお遊び地図は600円なんて出血大サービスは要らないから1500-3000円程度までに設定してあげつない商売をしてもいいんだよ、と小さな声でこっそり言っておきます。

昨年の東北大会の時、今回の大会を荒浜でやると聞いて、今年疲れたから来年は手を抜くのか、と実行委員長の井口を責めた事があります。そのときに「そうではありません。自分たちは是非ここでやりたい、と考えて決断したのです」と言った主旨の反論されたことを思い出しました。徹頭徹尾、今回の東北大会は「やらされる」大会ではなく「自分たちの意思やる」大会でした。良くここまで変わったものだ、としみじみ思います。運営者はみな余裕を持って運営を楽しんでいる様子を感じられ、その点が一番良かった、と感じています。



今後もビジョンある大会運営を

さて、来年は宮城県で東日本大会を行うことが内定しています。仙台 OLC が少し盛り返ってきていますが、やはり現役生が主力として駆り出されることになるでしょう。そのとき、東北大会の運営はどうなるのか、再び「やらされる」大会に戻ってしまうのではないかと、大会が大会だけに実は少し心配です。東北大の関係者のみならず、宮城県協会の関係者にもこの転機を逃すことなく、勇気を持ってビジョンある運営をされる事を願ってやみません。

(米本路憲)